

DATA FILE



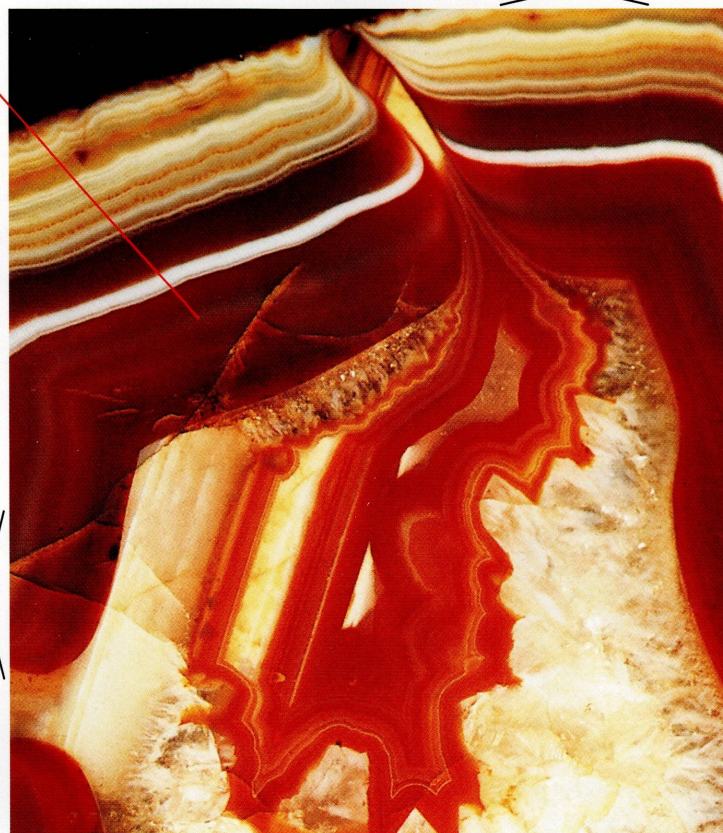
名 前	AGATE (アゲイト) / めのう
化学組成	SiO ₂
色	白色、乳白色、灰色、黒色、褐色、赤色、緑色など
光 沢	ガラス光沢、脂肪光沢
蛍 光	なし
条 痕	白色
劈 開	なし
断 口	貝殻状
硬 度	7
比 重	2.75

めのう AGATE

玉髄のなかまで、微細な石英の結晶が集まってできている。

ハンマーでたたくと貝殻状の断口があらわれる。

ブラジルで産出しためのうの断面。



ガラスのような光沢や、脂肪のようにぬるぬるとした光沢を持つ。

素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕を示す。

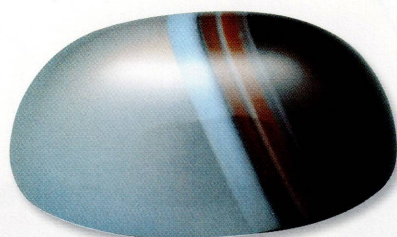
玄武岩などの火山岩中に見られ、内部にある晶洞の内側を覆う円心円状や不規則な層として形成される。

玉髄の一種

とても小さな石英の結晶が集まってできた鉱物を「玉髄（カルセドニー）」といい、そのなかでも、さまざまな色や透明度で円心円状の縞模様が描かれたものを「めのう」と呼ぶ。めのうの縞模様は含まれる不純物によるもので、色は白色、乳白色、灰色が多く、ほかに褐色、赤色、緑色を帯びたものや、それらが組み合わさったものもあり、変化に富んでいる。また、木が化石化して有機物がめのうに置きかわった「めのう化石（珪化石）」、外周に規則的な縞模様が並んだ「景観めのう」、苔状や樹枝状の包有物を含む「苔めのう」、表面にまっすぐ平行な縞模様がある「オニックス」などもある。

めのう

▼ブローチに加工されためのう。



▲カボション・カットが施されためのう。

▼小石状のめのう。ペルー産。



世界的なめのう産業

めのうの多くは装飾品やアクセサリーに加工され、商品価値を高めるために着色が施されることもある。ドイツのイダー・オーバーシュタインという町では、1500年代半ば頃から質の高いめのうが産出し、めのうを研磨加工する産業が発展。現在では、ブラジルやウルグアイなど他国から輸入しためのうを利用した装飾品の産地としても世界的に有名だ。なお、装飾品として利用できないめのうは、硬度の低いものを磨く研磨材や、薬品などをすりつぶすための乳棒や乳鉢などに加工される。

主な産地



アメリカ

アリゾナ州に世界で最も有名なめのう化石がある。



▲樹枝状の包有物を含むものは、「苔めのう」と呼ばれる。



▶縞模様を生かして海の風景が描かれているめのう。